

感染症発生動向調査委員会報告 6月

《今月のトピックス》

- 風しんの流行が続いています。

全数把握疾患

6月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	2件	アメーバ赤痢	4件
細菌性赤痢	1件	急性脳炎	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
レジオネラ症	1件	風しん	83件

<腸管出血性大腸菌感染症>

2件(O157 VT1VT2、O157H7 VT1VT2)の報告がありました。感染経路等調査中です。本症は例年夏季に感染者数のピークを迎えるため、今後の注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。通常、菌は家畜の腸内に存在し、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。

<細菌性赤痢>

1件のShigella sonnei(D群)の報告がありました。渡航先(カンボジア、ベトナム)での感染が推定されています。

<E型肝炎>

50歳代の報告が1件ありました。国内での経口感染(生肉摂取)が推定されています。発熱、全身倦怠感、黄疸、肝機能異常があり、血清IgA抗体の検出で診断されました。国内での感染の多くは、肉や内臓の喫食が関連しています。E型肝炎となった場合、致死率は、一般の人々では、0.5～4.0%ですが、妊婦の場合では、17～33%と高く、注意が必要です。

<デング熱>

1件の報告がありました。渡航先(インドネシアバリ島)での感染が推定されています。

<レジオネラ症>

肺炎型1件の報告があり、塵埃感染が推定されていますが詳細については現在調査中です。

<アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症3件、腸管外アメーバ症1件の報告があり、すべて国内での感染が推定されています。腸管アメーバ症のうち、1件は性的接触による感染が推定され、他は感染経路不明でした。腸管外アメーバ症の1件は肝膿瘍で、感染経路不明でした。

<急性脳炎>

60歳代女性の報告が1件ありました。帯状疱疹が悪化し、意識障害、構音障害が出現しました。病原体は現在検査中です。

<後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

3件の報告がありました。1件は無症状病原体保有者で、国内での異性間性的接触、もう1件はAIDSで、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。残るもう1件はその他(クリプトコッカス肺炎)で感染経路感染地域等不明でした。

<侵襲性肺炎球菌感染症>

幼児の報告が1件ありました。ワクチン接種歴は2回有り、症状は発熱と咳で、血液中から肺炎球菌が検出されました。血清型1型(血液より)です。

<風しん>

83件(男性62件、女性21件)の報告がありました。7件を除いて予防接種歴が無いか確認できませんでした。風しんは現在流行が続いています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しんHI抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められて

います*。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の20～40歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。予防接種の助成(4月22日～9月30日)が実施されています。

※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

◆横浜市感染症臨時情報:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinj/>

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html>



定点把握疾患

平成25年5月27日から平成25年6月23日まで(平成25年第22週から平成25年第25週まで。ただし、性感染症については平成25年5月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成25年 週一月日対照表

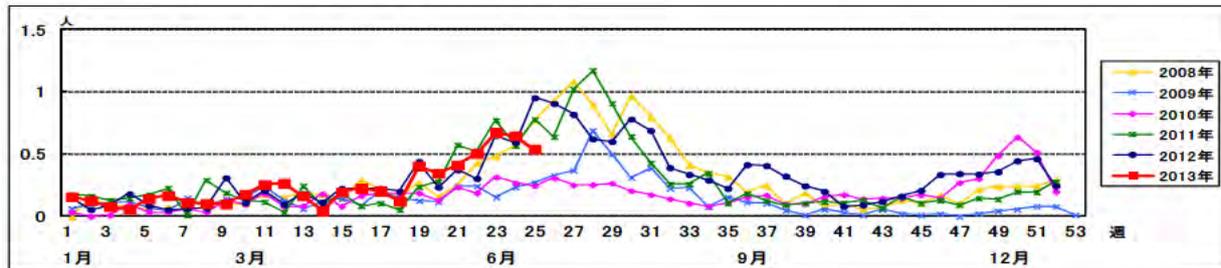
第22週	5月27日～ 6月 2日
第23週	6月 3日～ 6月 9日
第24週	6月10日～ 6月16日
第25週	6月17日～ 6月23日

1 患者定点からの情報

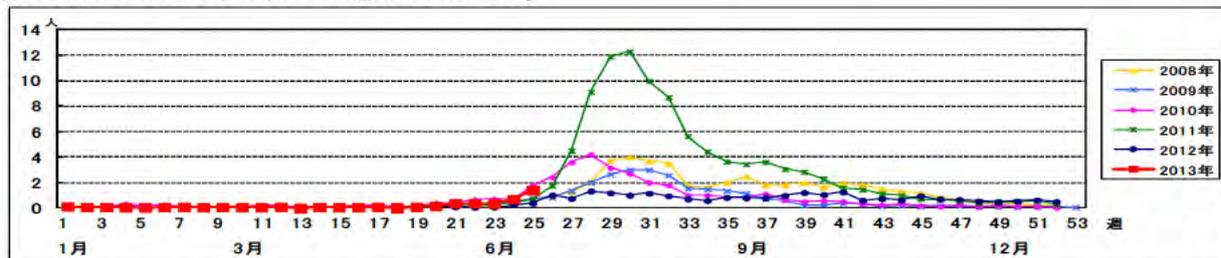
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。

なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<咽頭結膜熱> 市全体で第23週0.67とやや増加していましたが、第25週0.54と減少しました。ただ、例年夏季に流行する疾患なので注意が必要です。予防対策は、うがいや手洗いが重要です。また、プールの前後はシャワーをよく浴びるようにしましょう。



<手足口病> 第25週は市全体で定点あたり1.40と、やや報告数が多くなってきました。例年これからの時期に流行するため、今後の注意が必要です。



<性感染症> 5月は、性器クラミジア感染症は男性が17件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が8件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が9件、女性が0件でした。

<基幹定点週報> マイコプラズマ肺炎では第22週0.75、第23週1.33、第24週1.00、第25週0.00でした。以前に比べ落ち着いています。無菌性髄膜炎、細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報> 5月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症3件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

6月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点54件(鼻咽頭ぬぐい液48件、ふん便6件)、基幹定点6件(髄液6件、鼻汁1件、直腸ぬぐい液1件)、眼科定点2件(眼脂)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎23人、下気道炎11人、手足口病(疑い含む)6人、胃腸炎6人、アデノウイルス感染症3人、発疹症1人、突発性発疹症疑い1人、風疹疑い1人、流行性角結膜炎1人、伝染性紅斑疑い1人、基幹定点は無菌性髄膜炎3人、肺炎1人、急性脳症1人、熱性けいれん1人、眼科定点は流行性角膜炎疑い2人でした。

7月10日現在、小児科定点のアデノウイルス感染症患者3人からアデノウイルス2型、4型、型未同定、上気道炎患者1人からアデノウイルス2型、下気道炎患者1人からエコーウイルス18型、1人からアデノウイルス(型未同定)が分離されています。これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の手足口病患者6人と上気道炎患者2人からコクサッキーウイルスA6型、上気道炎患者2人からアデノウイルス3型と4型、胃腸炎患者1人からロタウイルス、1人からノロウイルスG2型、下気道炎患者1人からライノウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

6月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から5件、定点以外の医療機関等からは6件あり、赤痢菌、腸管病原性大腸菌、腸管出血性大腸菌、パラチフスA菌(ベトナム、カンボジアに渡航)が検出されました。

その他の感染症は、小児科から9件、その他が4件でした。バンコマイシン耐性腸球菌は *vanB* 型の *Enterococcus faecium* でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(6月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	6月			2013年1月～6月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	5	6	3	55	22
菌種名						
赤痢菌			1		1	1
腸管病原性大腸菌		1			2	
腸管出血性大腸菌			4			11
腸管毒素原性大腸菌					2	
チフス菌					3	
パラチフスA菌			1			2
サルモネラ				1	17	
不検出	0	4	0	2	30	8

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	6月			2013年1月～6月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	9	0	4	45	15	119
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1			1	1	
	T2	2		5		
	T6	2		5		
	T4			8		
	T12	1		4		
	T25			2		
	T28			3		
	T B3264			2		
B群溶血性レンサ球菌				1		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					6	
バンコマイシン耐性腸球菌			1		1	20
インフルエンザ菌				1		1
肺炎球菌		3	3	5	3	14
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌				2	4	
結核菌						10
G群溶血性レンサ球菌						2
緑膿菌						63
不検出		1	0	0	6	0
						7

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】